

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」のキーワードのもと、社会で通用する規範意識を醸成し、これからの大きな変化が起きるであろう社会で多様な対応ができるようにもう一つのキーワード「脳力開花」のもと基礎学力を確立し、生きる力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者が安心と感じる学校になる。
- 2 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように思考力、判断力、表現力を育成する。
- 3 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 4 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 5 個々の教育的ニーズに応じた支援を実現していき、すべての生徒が他者理解、思いやり、そして自己を大切にする気持ちを持ち、自らの夢や志を持って新しい社会を切り拓く態度を育成する。

2 中期的目標

- 1 社会で通用する基礎学力の獲得をめざす
- (1) 積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。
- (2) 授業形態の工夫、I C T機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的で深い学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。授業のキーワード「脳力開花 解る 創る 伝える」を推進する。
- (3) 大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけできるようガイダンスを充実させるとともに、多様な進路希望を実現できる取組みを確立する。
- (4) 生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。
- 2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成をめざす。
- (1) 平素の生活指導（服装指導・遅刻指導・美化活動）により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- (2) 他者理解と思いやりを備え、自分を大切にする気持ちを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。
- (3) 職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。
- (4) 生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活が送れるよう支援する。
- (5) 部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらし、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。
- (6) 保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。
- 3 地域連携と機能的な校内体制の整備、さらに「中学生が行きたい学校」となる。
- (1) 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。
- (2) 出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。
- (3) 生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。
- (4) ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、「中学生が行きたい学校」となる。
- (5) 教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ☐ ☐ 【生徒指導等】 ☐ ☐ 【学校運営】 ☐	第1回（ ／ ）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会で通用する基礎学力の確立	(1)積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。まずは主要3教科での強化を図る。 (2)授業形態の工夫、ICT機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的で深い学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。授業のキーワード「脳力開花 解る 創る 伝える」を推進する。 (3)大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけできるようガイダンスを充実させるなど、進学希望が実現できる学力保障、進路指導の取組みを強化する。 (4)生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。	(1) ア・1年数学：習熟度別2クラス3展開 1年英語(英会話)：1クラス2展開の少人数 ・1年国語(国語総合)：1クラス2展開の少人数 イ・教育産業の実力テストを実施 (2) ア・授業研究チームによる研究。実践だけでなく洗練。 ・授業研究チームからの啓発を軸に新学習指導要領への移行 イ・普通教室にプロジェクターを設置し設備を整えAL的な視点からの授業を研究し、実施授業を多く展開する。 ウ・退学者数の減少 エ・e-learningの研究 (3) ア・元キャリアCoを校長マネジメントで招聘し、専門的なアドバイスを受ける。 イ・大学からの出前授業を充実 ウ・英語教育での外部検定の対応 (4) ア・カリキュラムの変更	(1) ア・少人数アンケート結果： 数学 肯定81% →85% 英会話 肯定76% →80% 国語総合(新) 肯定92%→維持 イ・教育産業の実力テスト結果向上 年間2回(1,2年生) D3ゾーン8→21 増加数8以下に ABゾーン数を春から秋に20以上増 (2) ア・学校教育自己診断 (H27 わかりやすい 肯定70%→75%) ・「授業研究チーム」による研究 授業を年間2回、 イ・学校経営推進費の獲得 ウ・退学者数の減少4名→2名 エ・アプリについて研究 (3) ア・年間25回 イ・大学出前授業講座数 10講座 ウ・本校の体制を決める (4) ア・カリキュラムの変更	
2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成	(1)平素の生活指導(服装指導・遅刻指導・美化活動)により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。 (2)他者理解と思いや리를備え、自分を大切にする気持ちを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。 (3)職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。 (4)生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活が送れるよう支援する。 (5)部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらし、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。 (6)保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。	(1) ア・遅刻数、欠席者数を減らす。 イ・皆勤者数の増加 (2) ア・守口東高校アンケートを実施し、悩み等を早期に聞き取り、寄り添い、前向きな姿勢に導く。 (3) ア・1年生からの進路プログラムの充実 イ・国語・数学・英語に主要3教科の基礎学力を充実させる。 (4) ア・お互いを認めて励ましあったり支えあえるように機会を提供する。 (5) ア・近隣の中学校を対象に地域大会「守東カップ」開催 イ・地域との連携による活動 (6) オ・PTA活動を活発化して、保護者の関心を促し、ともに生徒の成長を支援する。 ・寄り添い姿勢を備えた保護者対応。	(1) ア・生徒遅刻回数の減少 遅刻4982回→4500回 イ・年間皆勤者数の増加 1年61、2年44、3年57 → 1年70、2年70、3年50 (2) ア・学校教育自己診断 「生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」の増加 H29 73% →80% 守口東高校安心アンケート安心度 34期生(新3年生)3.6、3.6→3.7、3.9 35期生(新2年生)3.8、3.6→3.8、3.8 (3) ア・学校教育自己診断 進路について肯定を増加 H28 84%→H29 90% イ・教育産業のテスト結果の向上 D3ゾーン8→21 増加数8以下に ABゾーン数を腹から秋に20以上増 (4) ア・行事後のアンケートによる 学校教育自己診断 70%→75% (5) ア・部活動加入率を伸ばす。 5月 42%→50%、 ・サッカー部、女子バレー部、アソ部、ダンス部で実施 (6) ア・守口東メールマガジンの送信回数 60回→維持 イ・学校教育自己診断 「ホームページや携帯メールマガジンで学校の様子がよくわかる」 H29 肯定64.2% →70%	
3 地域連携と校内体制の整備、さらに「行きたい学校」へ	(1)異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。 (2)出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。 (3)生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。 (4)ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、中学生が行きたい学校となる (5)教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。	(1) ア・地元中学校との連携 ・支援学校との連携 ・大学からの出前授業等 (2) ア・出身中学との緊密な連携による生徒指導の充実 イ・入学前に中学校や関係機関との連携を図り、寄り添いの指導を進める。 (3) ア・全教員による相談機能を強化するために研修を実施。 イ・専門的なアドバイスを受けながら、関係機関と連携しながら相談を受ける。 (4) ア・HPのタイムリーな更新 イ・「守口東高校メールマガジン」による情報発信 ウ・校内モニタを活用した生徒活動等の情報発信 (5)時間外勤務時間を短縮 ア・時間外勤務の減少	(1) ア・地元中学校への出前授業回数 3校 ・支援学校との連携 維持 ・大学との連携 6回以上 (2) ア・1年生による母校訪問 訪問校 全校校 イ・入学前中学校訪問数 全校 (3) ア・職員研修を1回実施。 イ・SSW との年間6回以上のケース会議 (4) ア・ホームページの新着情報 更新回数の増加 30回→40回 イ・「守口東メールマガジン」の発信 発信回数 60回→ 維持 ウ・校内モニタの更新 52回→維持 (5) ア・時間外勤務時間一人平均短縮 一人平均329h→310h	